

POWER SOURCE

Patent Number: ☐ EP1249749
Publication date: 2002-10-16
Inventor(s): HIRAMATSU YOSHIHISA (JP); HOJO YOSHIYUKI (JP)
Applicant(s): ROHM CO LTD (JP)
Requested Patent: ☐ JP2001084044
Application Number: EP20000944360 20000707
Priority Number(s): WO2000JP04576 20000707; JP19990199260 19990713; JP20000193756 20000628
IPC Classification: G05F1/56
EC Classification:
Equivalents: ☐ US6525517, ☐ WO0104721
Cited Documents:

Abstract

Data supplied from the esp@cenet database - I2

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-84044

(P2001-84044A)

(43) 公開日 平成13年3月30日 (2001.3.30)

(51) Int.Cl.⁷

G 0 5 F 1/56

識別記号

3 1 0

F I

G 0 5 F 1/56

テ-マ-ト (参考)

3 1 0 J 5 H 4 3 0

3 1 0 B

3 1 0 E

3 1 0 K

審査請求 未請求 請求項の数 9 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号 特願2000-193756 (P2000-193756)

(22) 出願日 平成12年6月28日 (2000.6.28)

(31) 優先権主張番号 特願平11-199260

(32) 優先日 平成11年7月13日 (1999.7.13)

(33) 優先権主張国 日本 (J P)

(71) 出願人 000116024

ローム株式会社

京都府京都市右京区西院溝崎町21番地

(72) 発明者 北條 喜之

京都市右京区西院溝崎町21番地 ローム株式会社内

(72) 発明者 平松 慶久

京都市右京区西院溝崎町21番地 ローム株式会社内

(74) 代理人 100085501

弁理士 佐野 静夫

Fターム (参考) 5H430 BB01 BB05 BB09 BB11 EE03

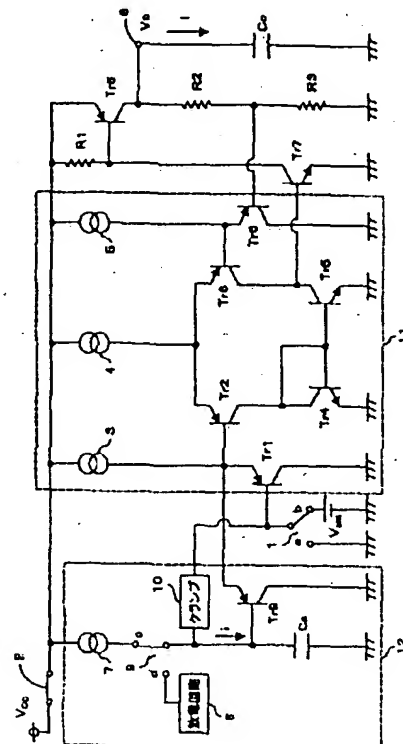
FF04 FF13 GG09 HH03 KK02

(54) 【発明の名称】 電源装置

(57) 【要約】

【課題】 本発明は、起動時の突入電流を軽減させるために、起動時に入力される電圧を徐々に上昇させることによって、出力電圧を徐々に上昇させるソフトスタート機能を設けた電源装置を提供することを目的とする。

【解決手段】 本発明の電源装置は、ベースが比較器11の正相入力となるトランジスタTr1のエミッタにエミッタが接続されるとともにコレクタが設置されたトランジスタTr9と、トランジスタTr1のベースとトランジスタTr9のベースとの間に接続されたクランプ回路10と、スイッチ2を介して電源電圧V_{CC}が印加される定電流源7と、一端がトランジスタTr9のベースに接続されるとともに他端が設置されるコンデンサCsと、コンデンサCsと接続されるとともに接点cが定電流源7と接続され接点dが放電回路8に接続されたスイッチ9と、放電回路8とから構成されるソフトスタート回路12を有する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 出力回路からの出力電圧を分圧して得た検出電圧を比較器で基準電圧と比較し、該比較器の比較出力によって前記出力回路から出力される検出電圧が前記基準電圧と等しくなるように制御する電源装置において、

起動時に徐々に増加する電圧を出力するとともに、その出力電圧が前記基準電圧を超える所定の電圧に至るまで前記基準電圧を前記比較器に印加しないように動作するソフトスタート回路を設けたことを特徴とする電源装置。

【請求項2】 前記比較器が、第1電圧が印加された第1電流源、第2電流源、及び第3電流源と、エミッタに前記第1電流源が接続され、ベースに前記基準電圧が印加された第1トランジスタと、ベースに前記第1トランジスタのエミッタが接続されるとともに、エミッタに前記第2電流源が接続された第2トランジスタと、エミッタに前記第2電流源が接続された第3トランジスタと、エミッタに前記第3電流源と前記第3トランジスタのベースとが接続され、ベースに前記出力回路からの出力電圧を分圧した前記検出電圧が与えられる第4トランジスタとを有し、前記第3トランジスタのコレクタ側から前記比較出力を前記出力回路に出力することを特徴とする請求項1に記載の電源装置。

【請求項3】 前記ソフトスタート回路が、前記第1電流源と、前記第1トランジスタのエミッタと前記第2トランジスタのベースとの接続ノードに一端が接続されるとともに、他端に前記第2電圧が印加されたコンデンサと、から構成されることを特徴とする請求項2に記載の電源装置。

【請求項4】 前記ソフトスタート回路が、第1電圧が印加された第4電流源と、一端が該第4電流源に接続されるとともに、他端に前記第2電圧が印加されたコンデンサと、エミッタに前記第1トランジスタのエミッタが接続され、ベースに前記コンデンサと前記第4電流源との接続ノードが接続されるとともにコレクタに前記第2電圧が印加された第5トランジスタと、前記第1トランジスタのベースと前記第5トランジスタのベースとの間に接続されて、前記第5トランジスタのベースの電圧を所定の電圧を超えないように制限するためのクランプ回路と、から構成されることを特徴とする請求項2に記載の電源装置。

【請求項5】 前記比較器が、

コレクタとベースに前記第2トランジスタのコレクタが接続されるとともに、エミッタに前記第2電圧が印加された第6トランジスタと、

前記第3トランジスタのコレクタにコレクタが接続され、前記第6トランジスタのベースにベースが接続されるとともにエミッタに前記第2電圧が印加された第7トランジスタと、を有し、

又、前記電源装置の動作を停止する際に、前記コンデンサを放電して初期化するための放電回路を設けたことを特徴とする請求項3又は請求項4に記載の電源装置。

【請求項6】 前記電源装置が、1チップの半導体集積回路装置であることを特徴とする請求項1～請求項5のいずれかに記載の電源装置。

【請求項7】 起動時の出力電流が通常の出力電流の10倍以内になるように充電時間が設定されていることを特徴とする請求項6に記載の電源装置。

【請求項8】 前記電源装置が、前記コンデンサが外部に設けられるとともに、前記コンデンサ以外の回路が1チップの半導体集積回路装置であることを特徴とする請求項3～請求項5のいずれかに記載の電源装置。

【請求項9】 前記ソフトスタート回路において、前記コンデンサを放電して初期化するとき、その放電時間を短縮するためのクランプ回路が設けられたことを特徴とする請求項1に記載の電源装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、シリースレギュレータや定電圧電源等の電源装置及びこの電源装置を構成する半導体集積回路装置に関する。

【0002】

【従来の技術】 図6に、従来使用されている電源装置の内部構成を示す回路図を示す。この従来の電源装置は、スイッチ1、2と、スイッチ2を介して電源電圧 V_{CC} が印加される定電流源3、4、5及び抵抗 $R1$ と、 pnp 型トランジスタ $Tr1$ 、 $Tr2$ 、 $Tr3$ 、 $Tr6$ 、 $Tr8$ と、 nnp 型トランジスタ $Tr4$ 、 $Tr5$ 、 $Tr7$ と、出力端子6と、出力端子6の出力電圧を分圧するための抵抗 $R2$ 、 $R3$ とから構成される。

【0003】 トランジスタ $Tr1$ は、ベースにスイッチ1が接続され、エミッタが定電流源3に接続されるとともに、コレクタが接地されている。トランジスタ $Tr2$ 、 $Tr3$ は、エミッタが定電流源4に接続され、それぞれのベースにトランジスタ $Tr1$ 、 $Tr6$ のエミッタが接続されるとともに、それぞれのコレクタにトランジスタ $Tr4$ 、 $Tr5$ のコレクタが接続される。トランジスタ $Tr4$ 、 $Tr5$ は、それぞれのエミッタが接地されるとともにベースが相互に接続される。又、トランジスタ $Tr4$ は、そのコレクタがベースと接続され、トランジスタ $Tr5$ は、コレクタがトランジスタ $Tr7$ のベースに接続される。

【0004】トランジスタTr6は、エミッタが定電流源5と接続され、ベースが抵抗R2、R3の接続ノードと接続されるとともにコレクタが接地される。トランジスタTr7はコレクタが抵抗R1に接続されるとともにエミッタが接地される。トランジスタTr8は、エミッタにスイッチ2を介して電源電圧V_{CC}が印加され、ベースが抵抗R1と接続されるとともにコレクタが出力端子6と接続される。抵抗R2は、出力端子6と接続され、又、抵抗R3は接地される。又、スイッチ1の接点aを接続したときトランジスタTr1のベースが接地され、スイッチ1の接点bを接続したときトランジスタTr1のベースに電圧V_{BG}が印加される。更に、出力端子6に他端が接地された位相補償容量となるコンデンサC_oを接続する。

【0005】このような電源装置において、定電流源3、4、5及びトランジスタTr1、Tr2、Tr3、Tr4、Tr5、Tr6によって、トランジスタTr1のベースが正相入力、トランジスタTr6のベースが逆相入力、トランジスタTr3、Tr5のコレクタ同士が接続された接続ノードが出力となる比較器11が形成される。即ち、比較器11の正相入力にスイッチ1を介して電圧V_{BG}が印加されるとともに、逆相入力に出力端子6の出力電圧を抵抗R2、R3で分圧した電圧が帰還された負帰還回路となっている。

【0006】この電源装置において、スイッチ2が接続され、定電流源3、4、5、抵抗R1及びトランジスタTr8のエミッタに電源電圧V_{CC}が印加される。このとき同時に、スイッチ1が接点bに接続されて、トランジスタTr1のベースに入力電圧V_{BG}が印加される。このように、トランジスタTr1のベース電位をV_{BG}とすることにより、トランジスタTr1が非導通の状態となり、トランジスタTr2のベースからトランジスタTr1のエミッタへ電流が流れにくくなると、トランジスタTr3のエミッタ電流がトランジスタTr2のエミッタ電流よりも大きくなる。又、トランジスタTr4、Tr5がカレントミラー回路を形成しているため、トランジスタTr4、Tr5のコレクタ電流が、トランジスタTr2のエミッタ電流に等しい大きさとなる。

【0007】そのため、比較器11からトランジスタTr7のベースへ電流が流れ、このベース電流を増幅したコレクタ電流がトランジスタTr7を流れるため、抵抗R1によってトランジスタTr8のベース電圧が降下される。よって、トランジスタTr8にエミッタ電流が流れ、出力端子6より出力電圧V_oが出力される。

【0008】

【発明が解決しようとする課題】このようにして、図6のような電源装置の出力端子6より、出力電圧V_oが出力されるが、出力電圧V_oが数m秒経て立ち上がるために、コンデンサC_oに1A以上もの起動時充電電流（以下、「突入電流」と称する）が流れる。この突入電流

は、電源装置の出力トランジスタの電流能力限界まで流れるため、従来の電源装置のように、急激に出力電圧が立ちがる場合、大きな突入電流に伴う発熱によって、電源装置の特性劣化したり、場合によっては破壊してしまう恐れもあった。又、例えば、V_{CC}入力源がDC/DCの場合には、突入電流により電源電圧V_{CC}が降下してしまうため、電源装置と並列で用いている回路全てが起動不良となる恐れがある。

【0009】上記のような問題を鑑みて、本発明は、起動時の突入電流を軽減させるために、起動時に入力される電圧を徐々に上昇させることによって、出力電圧を徐々に上昇させるソフトスタート機能を設けた電源装置を提供することを目的とする。

【0010】

【課題を解決するための手段】上記の目的を達成するために、請求項1に記載の電源装置は、出力回路からの出力電圧を分圧して得た検出電圧を比較器で基準電圧と比較し、該比較器の比較出力によって前記出力回路から出力される検出電圧が前記基準電圧と等しくなるように制御する電源装置において、起動時に徐々に増加する電圧を出力するとともに、その出力電圧が前記基準電圧を超える所定の電圧に至るまで前記基準電圧を前記比較器に印加しないように動作するソフトスタート回路を設けたことを特徴とする。

【0011】このような電源装置によると、電源装置の起動時にソフトスタート回路から出力される電圧が所定の電圧に至るまで徐々に増加するとともに、このソフトスタート回路からの出力電圧が所定の電圧に至るまで、比較器に入力される基準電圧が印加されない。よって、比較器に入力される電圧の変化が緩やかなものとなり、起動時の出力回路の出力電圧の過渡応答を抑制することができる。

【0012】請求項2に記載の電源装置は、請求項1に記載の電源装置において、前記比較器が、第1電圧が印加された第1電流源、第2電流源、及び第3電流源と、エミッタに前記第1電流源が接続され、ベースに前記基準電圧が印加された第1トランジスタと、ベースに前記第1トランジスタのエミッタが接続されるとともに、エミッタに前記第2電流源が接続された第2トランジスタと、エミッタに前記第3電流源が接続された第3トランジスタと、エミッタに前記第3電流源と前記第3トランジスタのベースとが接続され、ベースに前記出力回路からの出力電圧を分圧した前記検出電圧が与えられる第4トランジスタとを有し、前記第3トランジスタのコレクタ側から前記比較出力を前記出力回路に出力することを特徴とする。

【0013】このような電源装置において、請求項3のように、前記ソフトスタート回路を、前記第1電流源と、前記第1トランジスタのエミッタと前記第2トランジスタのベースとの接続ノードに一端が接続されるとと

もに、他端に前記第2電圧が印加されたコンデンサと、から構成することによって、前記第1電流源から流れる電流を前記コンデンサに充電して、前記第1トランジスタのエミッタ電圧を徐々に増加した後、前記基準電圧及び前記第1トランジスタのベース・エミッタ間電圧によって前記第1トランジスタのエミッタ電圧を制限することができる。

【0014】又、請求項4のように、前記ソフトスタート回路を、第1電圧が印加された第4電流源と、一端が該第4電流源に接続されるとともに、他端に前記第2電圧が印加されたコンデンサと、エミッタに前記第1トランジスタのエミッタが接続され、ベースに前記コンデンサと前記第4電流源との接続ノードが接続されるとともにコレクタに前記第2電圧が印加された第5トランジスタと、前記第1トランジスタのベースと前記第5トランジスタのベースとの間に接続されて、前記第5トランジスタのベースの電圧を所定の電圧を超えないように制限するためのクランプ回路と、から構成し、前記第4電流源から流れる電流を前記コンデンサに充電して、前記第5トランジスタのベース電圧を徐々に増加して前記第1トランジスタのエミッタ電圧を徐々に増加した後、前記基準電圧及び前記クランプ回路によって前記第5トランジスタのベース電圧を制限することによって前記第1トランジスタのエミッタ電圧を制限ができる。

【0015】請求項5に記載の電源装置は、請求項3又は請求項4に記載の電源装置において、前記比較器が、コレクタとベースに前記第2トランジスタのコレクタが接続されるとともに、エミッタに前記第2電圧が印加された第6トランジスタと、前記3トランジスタのコレクタにコレクタが接続され、前記第6トランジスタのベースにベースが接続されるとともにエミッタに前記第2電圧が印加された第7トランジスタと、を有し、又、前記電源装置の動作を停止する際に、前記コンデンサを放電して初期化するための放電回路を設けたことを特徴とする。

【0016】請求項6に記載の電源装置は、請求項1～請求項5のいずれかに記載の電源装置において、前記電源装置が、1チップの半導体集積回路装置であることを特徴とする。

【0017】請求項7に記載の電源装置は、請求項6に記載の電源装置において、起動時の出力電流が通常の出力電流の10倍以内になるように充電時間が設定されていることを特徴とする。

【0018】請求項8に記載の電源装置は、請求項3～請求項5のいずれかに記載の電源装置において、前記電源装置が、前記コンデンサが外部に設けられるとともに、前記コンデンサ以外の回路が1チップの半導体集積回路装置であることを特徴とする。

【0019】請求項9に記載の電源装置は、請求項1に記載の電源装置において、前記ソフトスタート回路にお

いて、前記コンデンサを放電して初期化するとき、その放電時間を短縮するためのクランプ回路が設けられたことを特徴とする。

【0020】

【発明の実施の形態】<第1の実施形態>本発明の第1の実施形態について、図面を参照して説明する。図1は、本実施形態の電源装置の内部構造を示す回路図である。尚、図1の電源装置において、図6の電源装置と同一の素子及び部分は同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【0021】図1の電源装置は、pnp型トランジスタTr1, Tr2, Tr3, Tr6, Tr8と、npn型トランジスタTr4, Tr5, Tr7と、抵抗R1, R2, R3と、スイッチ1, 2と、定電流源3, 4, 5と、出力端子6とから構成される電源装置に、スイッチ2を介して電源電圧V_{CC}が印加される定電流源7と、pnp型トランジスタTr9と、コンデンサCsと、放電回路8と、スイッチ9と、クランプ回路10とが新たに設けられた電源装置である。

【0022】トランジスタTr9は、エミッタがトランジスタTr1のエミッタに接続され、ベースがコンデンサCsと接続されるとともにコレクタが接地される。コンデンサCsは、一端が接地されるとともに他端がスイッチ9と接続される。スイッチ9は、接点cが定電流源7に接続され、接点dが放電回路8と接続される。クランプ回路10は、トランジスタTr9のベースとトランジスタTr1のベースとの間に接続される。又、図6の電源装置と同様に、出力端子6には他端が接地された位相補償容量となるコンデンサCoが接続される。

【0023】尚、図6の電源装置と同様に、トランジスタTr1, Tr2, Tr3, Tr4, Tr5, Tr6と、定電流源3, 4, 5とによって比較器11が構成される。又、定電流源7と、放電回路8と、スイッチ9と、クランプ回路10と、トランジスタTr9と、コンデンサCsとによって、ソフトスタート回路12が構成される。

【0024】このような構成の電源装置の動作について説明する。今、この電源装置は、すでに、スイッチ9の接点dが接続されて、コンデンサCsが放電されて初期状態にあるものとする。スイッチ9を接点cに、スイッチ1を接点bに、それぞれ、切り換えるとともにスイッチ2を接続させる。図2に示すON（電源装置をONにした状態）とは、このようにスイッチ1, 2, 9を接続したときのことをいい、図2に示すOFF（電源装置をOFFにした状態）とは、スイッチ1, 2, 9を逆の状態にしたときのことをいう。又、図2（a）において、破線は電源電圧の状態を表し、実線は出力電圧V_oの状態を表す。更に、図2（b）において、破線はトランジスタTr1のベース電圧を表し、実線はトランジスタTr9のベース電圧を表す。

【0025】このようにして、定電流源3, 4, 5, 7、抵抗R1及びトランジスタTr8のエミッタに電源電圧V_{CC}が印加されるとともに、トランジスタTr1のベースに電圧V_{BG}が印加される。又、スイッチ9の接点cが接続されているので、定電流源7より電流がコンデンサCsに流れて、コンデンサCsが充電される。このように、各スイッチを切り換えて初期状態からONの状態に切り換えた瞬間は、図2(b)のように、トランジスタTr9のベース電圧が0であるので、トランジスタTr9が導通状態となり、トランジスタTr2のベース電圧はV_{BE}（電圧V_{BG}はトランジスタTr9のベース・エミッタ間電圧）となる。

【0026】又、図2(a)のように、出力端子6から出力される電圧は0のときは、トランジスタTr1, Tr6のベースに入力される電圧が等しい状態である。その後、コンデンサCsが充電されると、トランジスタTr9のベース電圧が徐々に高くなるとともに、トランジスタTr9のエミッタ電圧も高くなる。よって、トランジスタTr2のベース電圧がトランジスタTr3のベース電圧よりも高くなり、トランジスタTr2に流れるエミッタ電流がトランジスタTr3に流れるエミッタ電流より小さくなる。

【0027】トランジスタTr4, Tr5に流れるコレクタ電流は、トランジスタTr2に流れるエミッタ電流とその電流値の等しい電流であるから、トランジスタTr7に比較器11からの出力電流が流れる。トランジスタTr7は、この出力電流を増幅したコレクタ電流を流すことによって、抵抗R1でトランジスタTr8のベース電圧を降下させる。そして、トランジスタTr8に抵抗R1による電圧降下に応じたエミッタ電流が流れ、このエミッタ電流が抵抗R2, R3に流れることによって、出力電圧V_oが発生する。

【0028】このとき、図2(b)のようにトランジスタTr9のベース電圧が徐々に高くなることによってトランジスタTr2のベース電圧が徐々に高くなるので、トランジスタTr7に流れるベース電流も徐々に増加していく。よって、図2(a)のように、出力電圧V_oもトランジスタTr9のベース電圧に応じて徐々に高くなる。トランジスタTr9のベース電圧がこのように高くなり電圧V_{BG}を超えると、トランジスタTr9よりもトランジスタTr1に多くのエミッタ電流が流れ始め、トランジスタTr2のベース電圧がトランジスタTr1によって決定される。

【0029】このように、トランジスタTr1によって、トランジスタTr2のベース電圧が決定されるため、トランジスタTr2のベース電圧が一定となる。よって、トランジスタTr7に流れる出力電流が一定となり、図2(a)のように出力電圧V_oが一定となる。又、コンデンサCsには定電流源7より電流が流れ続けようとするが、クランプ回路10によってトランジスタ

Tr9のベース電圧が所定値以上にならないように制限されているので、コンデンサCsの充電動作が停止してトランジスタTr9のベース電圧も図2(b)のように所定値で一定になる。

【0030】このクランプ回路10は、エミッタがトランジスタTr9のベースに接続され、ベースがトランジスタTr1のベースに接続されるとともにコレクタが接地されたpnp型トランジスタを用いることによって実現できる。即ち、クランプ回路10に用いられるトランジスタのベース・エミッタ間電圧をV_{BE}とすると、トランジスタTr9のベース電圧がV_{BG}+V_{BE}となったとき、定電流源7からコンデンサCsに流れようとする電流がクランプ回路10のトランジスタに流れる。よって、コンデンサCsの充電動作が停止し、トランジスタTr9のベース電圧がV_{BG}+V_{BE}で保持される。

【0031】このように電源装置をONにすると、図2(a)のように、出力電圧V_oは、トランジスタTr9のベース電圧とともに徐々に増加し、トランジスタTr9のベース電圧が電圧V_{BG}を超えた後は一定となる。この出力電圧V_oが一定となるまでの時間τは、次式を用いることで求まる。尚、CsはコンデンサCsの容量値、iはコンデンサCsに充電される充電電流である。

$$\tau = Cs \times V_{BG} / i$$

【0032】よって、上記の式を用いて求めた時間τを用いて、次式よりコンデンサCoに流れる充電電流Iを求めることができる。尚、CoはコンデンサCoの容量値、V_{max}は出力電圧V_oが一定となったときの値である。

$$I = Co \times V_{max} / \tau$$

【0033】上式より、充電電流Iは、時間τが長くなれば小さくなるので、充電電流Iを通常の出力電流と同程度乃至10倍以内に納めるには、時間τを100m秒程度乃至数10m秒程度にすればよい。又、この時間τは、コンデンサCsの容量を大きくするか、又は、定電流源7から流れる充電電流iを小さくすることによって、長くすることができる。このようにして、出力電圧が立ち上がる時間を長くすることによって、起動時の充電電流を通常の出力電流と同程度乃至10倍以内に小さくすることができる。以下、このような値に設定された起動時の充電電流を「起動時充電電流」と称する。よって、この起動時充電電流Iは、図2(c)のように、出力電圧V_oが上昇しているときに流れる。

【0034】そして、出力電圧V_oが一定になった後、スイッチ1を接点aに、スイッチ9を接点dにそれぞれ接続するとともに、スイッチ2の接続を解いて、電源装置をOFFの状態にする。このとき、放電回路9によって、コンデンサCsが放電されて、図2(b)のように、トランジスタTr9のベース電圧が0となる。又、コンデンサCoが抵抗R2, R3を介して放電され、図2(a)のように出力電圧V_oが低くなる。

【0035】その後、再び、スイッチ1, 2, 9をそれぞれ切り換えて電源装置をONの状態にしたとき、トランジスタTr9は、前述した動作と同様の動作を行って、図2(b)のように、徐々にそのベース電圧が高くなって、 $V_{BG} + V_{BE}$ を超えたとき、一定となる。又、このとき、出力電圧 V_o は、図2(a)のように、0に至っていないものとする、トランジスタTr3のベース電圧がトランジスタTr2のベース電圧よりも高くなるため、トランジスタTr7にベース電流が流れない。よって、コンデンサC_oが抵抗R₂, R₃を介して放電され、出力電圧 V_o が低下し続ける。その後、トランジスタTr2のベース電圧がトランジスタTr3のベース電圧よりも高くなったとき、再び、図2(a)のように、前述した動作と同様の動作を行って出力電圧 V_o が上昇を始める。そして、トランジスタTr9のベース電圧が V_{BG} を超えたとき、出力電圧 V_o が一定となる。

【0036】尚、クランプ回路10としてpnp型トランジスタを用いた例を示したが、この素子による回路に限定されるものでなく、他の素子を用いた同様の動作を行う回路を用いても良い。又、放電回路8は、スイッチ9の接点dに一端が接続された抵抗の他端を接地することによって実現できるが、このような回路に限定されるものではない。又、このような電源装置を1チップの半導体集積回路装置としても良い。このように1チップの半導体集積回路装置としたとき、コンデンサC_sを外付けとすることでその容量を可変にすることができ、起動時充電電流の大きさの設定を変更することができる。

【0037】<第2の実施形態>本発明の第2の実施形態について、図面を参照して説明する。図3は、本実施形態の電源装置の内部構造を示す回路図である。尚、図3の電源装置において、図6の電源装置と同一の素子及び部分は同一の符号を付して、その詳細な説明を省略する。

【0038】図3の電源装置は、pnp型トランジスタTr1, Tr2, Tr3, Tr6, Tr8と、npn型トランジスタTr4, Tr5, Tr7と、抵抗R₁, R₂, R₃と、スイッチ1, 2と、定電流源3, 4, 5と、出力端子6とから構成される電源装置に、コンデンサC_sと、放電回路13と、スイッチ14とが新たに設けられた電源装置である。

【0039】コンデンサC_sは、一端が接地されるとともに他端がトランジスタTr1のエミッタとトランジスタTr2のベースとの接続ノードに接続される。スイッチ14は、トランジスタTr1のエミッタとトランジスタTr2のベースとの接続ノードに接続されるとともに、接点eが定電流源3に接続され、接点fが放電回路13と接続される。又、図6の電源装置と同様に、出力端子6には他端が接地された位相補償容量となるコンデンサC_oが接続される。

【0040】尚、図6の電源装置と同様に、トランジス

タTr1, Tr2, Tr3, Tr4, Tr5, Tr6と、定電流源3, 4, 5とによって比較器11が構成される。又、定電流源3と、放電回路13と、スイッチ14と、コンデンサC_sとによって、ソフトスタート回路15が構成される。

【0041】このような構成の電源装置の動作について説明する。今、この電源装置は、すでに、スイッチ14の接点fが接続されて、コンデンサC_sが放電されて初期状態にあるものとする。スイッチ14を接点eに、スイッチ1を接点bに、それぞれ、切り換えるとともにスイッチ2を接続させる。図4に示すON（電源装置をONにした状態）とは、このようにスイッチ1, 2, 14を接続したときのことをいい、図4に示すOFF（電源装置をOFFにした状態）とは、スイッチ1, 2, 14を逆の状態にしたときのことをいう。又、図4(a)において、破線は電源電圧の状態を表し、実線は出力電圧 V_o の状態を表す。更に、図4(b)において、破線はトランジスタTr1のベース電圧を表し、実線はトランジスタTr2のベース電圧を表す。

【0042】このようにして、定電流源3, 4, 5、抵抗R₁及びトランジスタTr8のエミッタに電源電圧 V_{CC} が印加されるとともに、トランジスタTr1のベースに電圧 V_{BG} が印加される。又、スイッチ14の接点eが接続されているので、定電流源3より電流がコンデンサC_sに流れて、コンデンサC_sが充電される。このように、各スイッチ切り換えて初期状態からONの状態へ切り換えた瞬間は、図4(b)のように、トランジスタTr2のベース電圧が0であるので、トランジスタTr2のベースが接地された状態となる。

【0043】又、図4(a)のように、出力端子6から出力される電圧は0なので、トランジスタTr6が導通状態となり、トランジスタTr3のベースが接地された状態となる。よって、トランジスタTr2, Tr3に入力される電圧が等しい状態となる。その後、コンデンサC_sが充電されると、トランジスタTr2のベース電圧が徐々に高くなるので、トランジスタTr2のベース電圧がトランジスタTr3のベース電圧よりも高くなり、トランジスタTr2に流れるエミッタ電流がトランジスタTr3に流れるエミッタ電流より小さくなる。

【0044】トランジスタTr4, Tr5に流れるコレクタ電流は、トランジスタTr2に流れるエミッタ電流とその電流値の等しい電流であり、トランジスタTr7に比較器11からの出力電流が流れる。トランジスタTr7は、この出力電流を増幅したコレクタ電流を流すことによって、抵抗R₁でトランジスタTr8のベース電圧を降下させる。そして、トランジスタTr8に抵抗R₁による電圧降下に応じたエミッタ電流が流れ、このエミッタ電流が抵抗R₂, R₃に流れることによって、出力電圧 V_o が発生する。

【0045】このとき、図4(b)のようにトランジス

タTr 2のベース電圧が徐々に高くなるので、トランジスタTr 7に流れるベース電流も徐々に増加していく。よって、図4 (a) のように、出力電圧VoもトランジスタTr 2のベース電圧に応じて徐々に高くなる。このようにトランジスタTr 2のベース電圧が高くなり、 $V_{BG} + V_{BE}$ (V_{BE} はトランジスタTr 1のベース・エミッタ間電圧) を超えると、トランジスタTr 1が導通して、トランジスタTr 1にエミッタ電流が流れ始めるので、図4 (b) のように、トランジスタTr 2のベース電圧が $V_{BG} + V_{BE}$ で一定となる。

【0046】このように、トランジスタTr 2のベース電圧が一定となると、トランジスタTr 7に流れる出力電流が一定となり、図4 (a) のように出力電圧Voが一定となる。このように電源装置をONにすると、図4 (a) のように、出力電圧Voは、トランジスタTr 2のベース電圧とともに徐々に増加し、トランジスタTr 2のベース電圧が電圧 $V_{BG} + V_{BE}$ を超えた後は一定となる。この出力電圧Voが一定となるまでの時間 τ は、次式を用いることで求まる。尚、CsはコンデンサCsの容量値、iはコンデンサCsに充電される充電電流である。

$$\tau = Cs \times (V_{BG} + V_{BE}) / i$$

【0047】よって、上記の式を用いて求めた時間 τ を用いて、次式よりコンデンサCoに流れる起動時充電電流Iを求めることができる。尚、CoはコンデンサCoの容量値、Vmaxは出力電圧Voが一定となったときの値である。

$$I = Co \times V_{max} / \tau$$

【0048】上式より、起動時充電電流Iは、時間 τ が長くなれば小さくなるので、起動時充電電流Iを通常の出力電流と同程度乃至10倍以内に納めるには、時間 τ を100m秒程度乃至数10m秒程度にすればよい。又、この時間 τ は、コンデンサCsの容量を大きくするか、又は、定電流源3から流れる充電電流iを小さくすることによって、長くすることができる。このようにして、出力電圧が立ち上がる時間を長くすることによって、起動時充電電流を通常の出力電流と同程度乃至10倍以内に小さくすることができる。よって、この起動時充電電流Iは、図4 (c) のように、出力電圧Voが上昇しているときに流れる。

【0049】そして、出力電圧Voが一定になった後、スイッチ1を接点aに、スイッチ14を接点fにそれぞれ接続するとともに、スイッチ2の接続を解いて、電源装置をOFFの状態にする。このとき、放電回路13によって、コンデンサCsが放電されて、図4 (b) のように、トランジスタTr 2のベース電圧が0となる。又、コンデンサCoが抵抗R2, R3を介して放電され、図4 (a) のように出力電圧Voが低くなる。

【0050】その後、再び、スイッチ1, 2, 14をそれぞれ切り換えて電源装置をONの状態にしたとき、ト

ランジスタTr 2は、前述した動作と同様の動作を行って、図4 (b) のように、徐々にそのベース電圧が高くなって、 $V_{BG} + V_{BE}$ を超えたとき、一定となる。又、このとき、出力電圧Voは、図4 (a) のように、0に至っていないものとする、トランジスタTr 3のベース電圧がトランジスタTr 2のベース電圧よりも高くなるため、トランジスタTr 7にベース電流が流れない。よって、コンデンサCoが抵抗R2, R3を介して放電され、出力電圧Voが低下し続ける。その後、トランジスタTr 2のベース電圧がトランジスタTr 3のベース電圧よりも高くなったとき、再び、図4 (a) のように、前述した動作と同様の動作を行って出力電圧Voが上昇を始める。そして、トランジスタTr 2のベース電圧が $V_{BG} + V_{BE}$ を超えたとき、出力電圧Voが一定となる。

【0051】放電回路13は、スイッチ14の接点fに一端が接続された抵抗の他端を接地することによって実現できるが、このような回路に限定されるものではない。又、このような電源装置を1チップの半導体集積回路装置としても良い。このように1チップの半導体集積回路装置としたとき、コンデンサCsを外付けとすることでその容量を可変にすることができ、起動時充電電流の大きさの設定を変更することができる。

【0052】尚、第1、第2の実施形態において、比較器を図1又は図3に示すような回路構成の比較器としたが、このような回路構成の比較器に限定されるものでなく、例えば、図5に示すような回路構成の比較器を用いても良い。図5に示す比較器の構成について、以下に説明する。尚、図5の比較器において、図1又は図3の比較器11を構成する各素子と同一の目的で使用される素子については、同一の記号を付してその詳細な説明は省略する。図5の比較器は、定電流源3, 4, 5と、pnp型トランジスタTr 1, Tr 2, Tr 3, Tr 6と、npn型トランジスタTr 4, Tr 5とから構成される比較器に、スイッチ2 (図1又は図3参照) を介して電源電圧Vcc (図1又は図3参照) がエミッタに印加されるpnp型トランジスタTr 10, Tr 11と、トランジスタTr 4のベース及びコレクタがベースに接続されたnpn型トランジスタTr 12と、トランジスタTr 5のベース及びコレクタがベースに接続されたnpn型トランジスタTr 13とが新たに設けられた比較器である。

【0053】又、図5の比較器は、図1又は図3に示す比較器11のように、トランジスタTr 4, Tr 5のベース同士が接続されていない。更に、トランジスタTr 12, Tr 13のエミッタが接地され、トランジスタTr 10, Tr 13のコレクタ同士が接続されるとともに、トランジスタTr 11, Tr 12のコレクタ同士が接続される。又、トランジスタTr 10のベースとコレクタがトランジスタTr 11のベースに接続される。このように、トランジスタTr 4とトランジスタTr 12と

が、トランジスタTr5とトランジスタTr13とが、トランジスタTr10とトランジスタTr11とが、それぞれ、カレントミラー回路を構成する。

【0054】尚、図5に示す比較器は、図1又は図3に示す比較器11と同様、トランジスタTr1のベースが正相入力、トランジスタTr6が逆相入力となる。又、出力はトランジスタTr11、Tr12のコレクタが接続された接続ノードであり、このトランジスタTr11、Tr12のコレクタが接続された接続ノードに、トランジスタTr7（図1又は図3参照）のベースが接続される。

【0055】このような比較器において、トランジスタTr1のベースに与える電圧がトランジスタTr6に与える電圧よりも高くなると、トランジスタTr3に流れるエミッタ電流がトランジスタTr2に流れるエミッタ電流よりも大きくなる。今、トランジスタTr2に流れるエミッタ電流がトランジスタTr4に流れるコレクタ電流と等しくなるので、トランジスタTr4とカレントミラー回路を構成するトランジスタTr12のコレクタ電流もトランジスタTr2に流れるエミッタ電流と等しくなる。又、トランジスタTr3に流れるエミッタ電流がトランジスタTr5に流れるコレクタ電流と等しくなるので、トランジスタTr5とカレントミラー回路を構成するトランジスタTr13のコレクタ電流もトランジスタTr3に流れるエミッタ電流と等しくなる。

【0056】更に、トランジスタTr10を流れるエミッタ電流がトランジスタTr13のコレクタ電流と等しいため、トランジスタTr10及びトランジスタTr10とカレントミラー回路を構成しているトランジスタTr11には、トランジスタTr3のエミッタ電流と等しいコレクタ電流が流れる。よって、トランジスタTr11を流れるエミッタ電流がトランジスタTr12を流れるコレクタ電流よりも大きくなるので、図5の比較器から電流が出力され、トランジスタTr7（図1又は図3参照）にベース電流が流れる。

【0057】

【発明の効果】本発明の電源装置によると、比較器に入力される電圧が徐々に増加されるとともに、この電圧が所定の電圧を超えるまで基準電圧を遮断するソフトスタート回路が設けられるので、比較器からの比較出力が急激に変化することが無く、比較器の出力側に容量性の負荷を接続した際に、この負荷に流れる起動時充電電流を軽減して比較出力の低下を抑制することができる。又、コンデンサを1チップの半導体集積回路装置の外部に接続されるように設けるため、このコンデンサの容量を変更することによって、起動時充電電流の大きさを設定することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】第1の実施形態の電源装置の内部構造を示す回路図。

【図2】図1の電源装置の各部の電圧を示すタイムチャート。

【図3】第2の実施形態の電源装置の内部構造を示す回路図。

【図4】図3の電源装置の各部の電圧を示すタイムチャート。

【図5】比較器の内部構造を示す回路図の一例。

【図6】従来の電源装置の内部構造を示す回路図。

【符号の説明】

1, 2, 9, 14 スイッチ

3, 4, 5, 7 定電流源

6 出力端子

8, 13 放電回路

10 クランプ回路

11 比較器

12, 15 ソフトスタート回路

Tr1~Tr3, Tr6, Tr8, Tr9~Tr11

pnp型トランジスタ

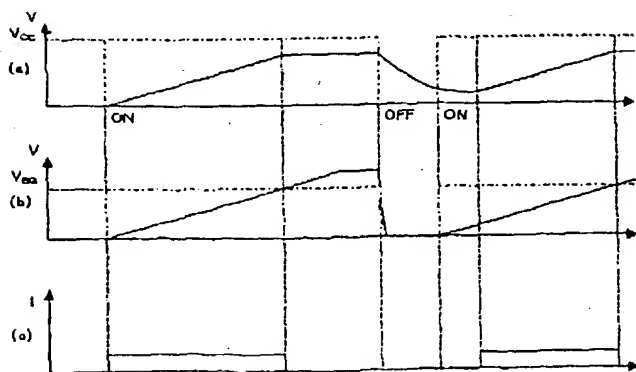
Tr4, Tr5, Tr7, Tr12, Tr13 np

n型トランジスタ

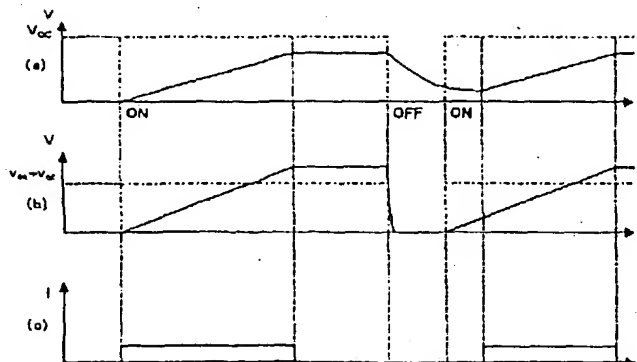
R1~R3 抵抗

Cs, Co コンデンサ

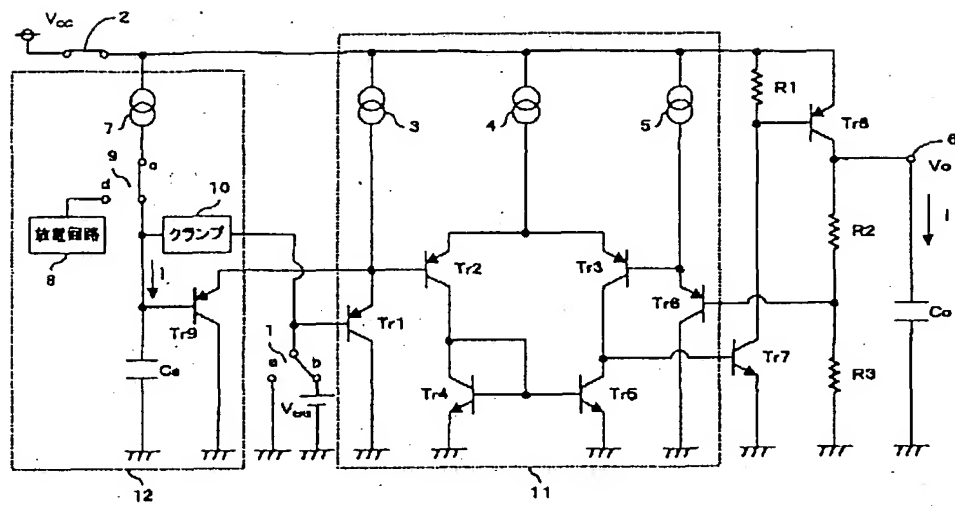
【図2】



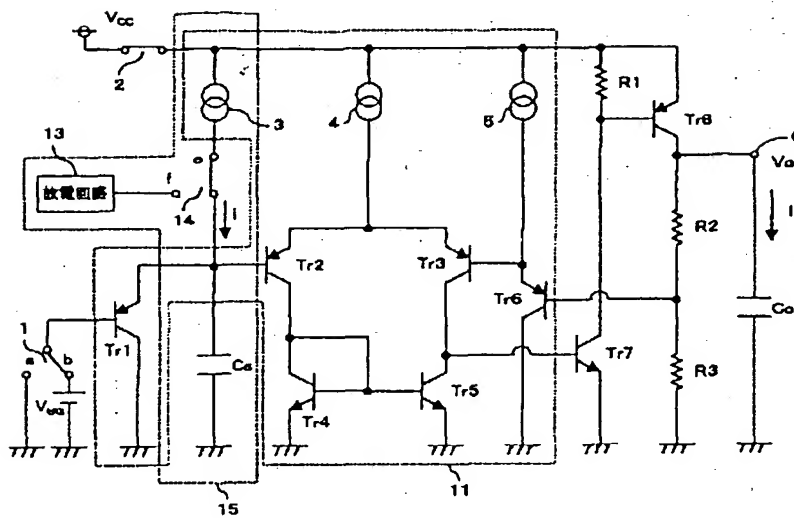
【図4】



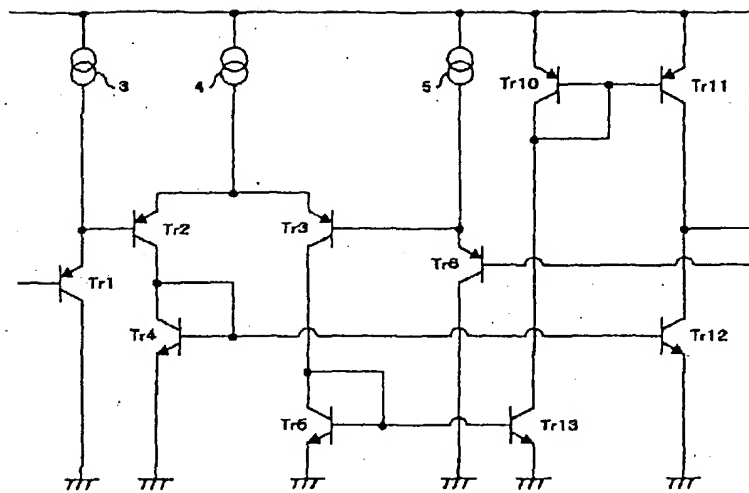
【図1】



【図3】



【図5】



【図6】

